

## 南蛮文化と京都

### 1. 文化革命としての南蛮人の渡来

①世界観の変容 (三国-中華・日本・天竺 史観の崩壊)

②一神教としてのキリスト教 (八百万の神々信仰への痛烈な批判、信長の許容、ただし権力の支配のもとで)

③新しい技術体系による文明開化 (民衆の衣食住の多様化・豊富化)

### 2. 東アジア交易世界の成立とポルトガル人の参加 (16世紀)

①天文学知識の発達と航海技術・大型構造船-琉球王国の衰退

オリーブ油・工芸品・銀貨・香辛料・薬材/中国の生糸・絹・陶磁器

②種子島への鉄砲伝来 (東南アジア製の火縄銃、中国人王直の船に乗船-(1543年)

7年後には鉄砲備えの城郭ができる。製造は雑賀、根来、国友。流通は堺商人と本能寺 (秀吉に焰硝を献上、信長との関連。大友宗麟は欧州の大型後装大砲輸入)

### 3. メダルの表と裏としてのイエズス会神父の布教とそののち

①サビエルの足跡(1549)鹿兒島-島津は拒否。肥前-松浦は拒否。豊後-大友は許可  
山口-大内は大道寺創建を許可。(西域の僧、天竺より渡来、仏法紹隆-1551年  
京都-大内義隆のもとへ日本国王宛書簡提出、11日間滞在。

日本人観-異教徒中、礼節・名誉・善行重視、最優秀の民、国民は貧窮、階級制度  
厳格、大罪を意に介せず、俗人が坊主より行状よきこと。

②ビレイラ、フロイスらの布教と信長との出会い、--1559年延暦寺に周旋依頼、三好、  
松永らの黙認下に布教開始。四条新町革棚町の裏長屋、六角室町、四条烏丸等。  
1569年信長と会見、1576年南蛮寺建立。1580年安土にセミナリオ、コレジョ開設。

1581年の報告--九州の信徒115,000 豊後10,000 都地方25,000 教会 200

③秀吉の禁教 第1次1587年「日本は神国也。20日以内の宣教師退去要求」

第2次1596年土佐漂着スペイン船の証告「目的は征服にあり」

1597年26聖人の殉教 (京都の信徒)

④慶長の復興 貿易周旋名目でフランシスコ会家康に接近。1602年江戸開教、1603年  
京都教会再建、伏見住院・病院建築。各地にだいうす町。

1605年には約10% 万人の信徒。家康側近にも。おたあジュリアなど。

4. 南蛮文化のかずかず

- ①天文地理 天体図、地球儀、暦学（明経道の学者ら入信）
- ②医学（外科）（曲直瀬道三、施薬院全宗らが学ぶ）
- ③印刷と出版 金属活字と印刷機の持ち込みロドリゲス『日本大文典』、『日葡辞書』『いそっぷ物語』『平家物語』『こんてんむつすむんじ』木活字本、伏見で原田アントニーにより印刷。
- ④衣料 シャムロ染（ラシャ染）カルサン（ズボン）、カッパ、ジョバン、ボタン、ナンバン頭巾、ナンバン傘
- ⑤食料品 ビスコ、パン、カステラ、テンプラ、コンペイ糖、ワカ（牛肉）、ポーロナンバン酒（ぶどう酒）
- ⑥雑貨 時計 カルタ、キセル、ラオ、、ビードロ、ガラス製品

